

Noism Company Niigata の活動評価に関する有識者会議 意見まとめ

日時：令和 2 年 11 月 19 日（木）13:30 から

会場：新潟市音楽文化会館

○上演活動について

・評価項目が「質の高い舞踊作品の創造・発信」となっているが、評価指標が全てアウトプット指標になっており、必ずしも質の高さとは直結していない。難しいことではあるが、批評家によるモニタリングなど、定性的な質の高さを確認していく指標も検討した方がよい。

・「質の高い舞踊作品の創造・発信」について、定量的なことではないので評価が分かれるかもしれないが、実際に見た限り十分に質が高いと感じている。回数やアンケートよりも、定性的な評価であれば、実際に見てどうだったかという面で評価した方がよい。

○地域貢献について

◆洋舞踊協会合同公演について

・協会としても初めてのことで不安もあったが、子どもも指導者も非常に満足している。やってよかったと心から思っている。こういう機会をこれからも続けてもらえれば、市民も子どもたちも成長していくだろう。

◆視覚障がい者向けワークショップについて

・素晴らしい取り組みだと思った。活動延長の件では、新潟市にとって Noism がどういう意味や価値を持つのかという大きな問いかけもあったと思う。正解はないがこういった社会包摂の領域に取り組んだことは素晴らしい。マンパワーや資金など色々な制約があると思うが、是非継続してもらいたい。視覚障がい以外にも、聴覚障がいや認知症など、ダンスが持つポテンシャルを活かせるといわれる領域があるので、そういった領域にもチャレンジしてもらえるとよいと思う。市としても資金・組織面でバックアップしてもらいたい。

・国際的に活躍しているダンサーの勅使河原三郎氏がイギリスの全盲の方とコラボレーションをしていたが、まだ世界的にも取り組み事例が少ない。是非映像化して、多言語化のうえ世界に発信してもらいたい。世界中のその分野に関心がある人が見ると思うので、世界レベルのチャレンジもしてもらいたい。また、視覚障がいだけでなく、聴覚障がいの方とのワークショップも非常に面白い取り組みになると思う。これは今のところ例がない。

・視覚障がい者が聴衆としてダンスを観るということには非常に距離がある。神奈川芸術劇場では、「音で観るダンスのワークインプログレス」という試みが行われている。障がいを持つ方をいかにして舞台に近づけるのかという試みは非常にハードルが高いが、そこに挑戦してくことは大変重要であり、公立ホールにはしかできない。また、様々なファシリテーターも必要になると思うが、毎年試み自体が進化していったらいい。そして、新潟に留めるだけでなく、全国にその成果を伝えてもらいたい。それがりゅーとぴあの価値になる。

◆ファシリテートに関することについて

・活動延長の検証会議の中で、市民と Noism を繋ぐファシリテートが重要であるという話があったと思うが、リクエストに応えるだけでなく、積極的に市民と寄り添えるように、Noism 側にファシリテーターを置くことが重要。

◆その他

・評価項目に「市民からの認知度の向上」と、「舞踊文化の向上への貢献」があるが、舞踊文化の向上への貢献に市民からの認知度の向上の側面もあると思う。裾野を広げるという観点からすると、振付ワークショップなど舞踊文化の向上への貢献にウエイトを置いた方が、市民の認知度の向上にも繋がるのではないか。

・指標の予定数を満たせなかったことについては、評価にとどめるのではなく、そこをどうしていくか市と（公財）新潟市芸術文化振興財団で協議してもらえるとよい。

・評価指標の活動期間について、「活動期間」という表現だとポジティブな指標に見えるので、スタジオBの市民利用を確保する趣旨であれば、「スタジオ占有期間」のような表現にしてはどうか。